

【第14回松戸市都市公園整備活用推進委員会】議事録

日 時：令和3年10月6日（水）午後3時～5時

場 所：松戸市役所市民サロン

出席委員：9名（別紙名簿のとおり）

事務局：街づくり部審議監、公園緑地課課長、公園緑地課課長補佐

21世紀の森と広場管理事務所長、同所長補佐

他3名

傍聴者：2名

議 事：

1. パークマネジメントプランの検討について
2. マーケットサウンディング調査の経過について
3. 新たなマネジメントシステムの検討について（答申の方向性）
4. その他

配布資料：議事次第、出席状況、松戸市都市公園整備活用推進委員会資料（第14回）

議事内容

1. パークマネジメントプランの検討について

【事務局】

- ・21世紀の森と広場の将来像について説明する。パークマネジメントプランに記載する個別の取り組み内容の検討を進めていくにあたり、「21世紀の森と広場を将来どのような公園にしたいか」という共通目標の設定がまず必要ではないかと考え、5月と6月に開催したワーキンググループの後に、時間をいただき意見をいただいた。
- ・いただいた意見を基に修正したものを掲載している。6月のワーキンググループ後に示した際には、これからの21世紀の森と広場の中で「変えるもの」と「変えないもの」を明らかにし、それをパークマネジメントプラン「新たなマネジメントシステム」で動かしていくという様な整理をした。
- ・これに対して、「変えるものと変えないものが何を指しているのか分かりにくい」「変えないものとして自然環境を挙げているが、自然環境という表現でみんながイメージを共有できるかどうか」「社会課題の解決という視点で、公園だけでなく地域の課題もパートナーシップで解決していくという内容が入ると良い」「SDGsの概念を表したウェディングケーキモデルの様に、自然環境をベースにしてそれを守り活用していくことで社会課題の解決に貢献するという書き方ができれば、次の時代に繋がっていくと思う」といった意見をいただいた。
- ・いただいた意見を踏まえ、SDGsのウェディングケーキモデルを参考とした図を作成した。パークマネジメントプランに基づいて、21世紀の森と広場に関わる多様な主体が、千駄堀地域の豊かなみどりをベースにして、21世紀の森と広場を進化

させ、地域の課題を解決していくというストーリーが見えるようにした。

- ・千駄堀の豊かなみどりについては、変えない・守るというだけでなく、市民の財産とし21世紀の森と広場を中心に次の世代につなげていくという表現とした。
- ・21世紀の森と広場の進化については、コロナ禍で人々の生活が大きく変わってきていることも踏まえ、ライフスタイルに合わせて公園も進化し、さらに公園から新しいライフスタイルを発信していくという表現とした。
- ・地域の課題解決については、21世紀の森と広場を地域の中心に、人々の暮らしの場として、地域の様々な機能との連携により社会課題や地域課題の解決を目指していくことを表現した。
- ・多様な主体が関わるマネジメントについては、当初から意見をいただいております、行政だけでなく民間事業者や市民など多様な主体がマネジメントに関わることや、多様な主体が互いの立場を尊重し、それぞれの得意な分野で活躍できるように緩やかに結びつくこと、これにより実行性、持続性の高いシステムを構築することを表現した。また、21世紀の森と広場を契機として、市域全体に波及させることで、市民が緑と暮らす豊かさを実感できるまちを目指していくことを表現した。
- ・資料2ページで、将来像を実現するための取り組みの内容を記載した。第1期の答申においてとりまとめた「パークマネジメントプランの基本的方向性」に記載されている21世紀の森と広場の魅力向上、地域の魅力向上、新しいマネジメントシステムの構築と実践という3つの柱と、それぞれの柱の中で取り組む内容を記載している。
- ・内容としてはパークマネジメントプランの基本的方向性と同じで、将来像の書きぶりに合わせて表現を変えた。また、パークマネジメントプランをもとに、様々な取り組みを実施していくことで、21世紀の森と広場の将来像の実現することを表すため、イメージ図を作成した。イメージ図の中で重点項目と記載しており、各取り組み内容の中から特に重点的に取り組む内容を選定し、図の中に表記することで、取り組みを強調したいと考えた。
- ・今回の資料をもとに委員から意見をいただき、取り組み内容の具体的な書き込みを進めたいと考えている。

【委員長】

- ・本日の資料について、確認したいことがある。資料1の将来像の最初のタイトルの部分では千駄堀と記載しているが、文中では千駄堀地域という表現を用いている。この千駄堀と千駄堀地域を分けている意味は何か。

【事務局】

- ・本公園だけではなく、本公園周辺を含む広い範囲を視野に入れているため、広範囲を意味して地域と記載している。本公園が対象ではあるが、最終的な目標として、周辺地域への波及効果を視野に入れており、千駄堀地域と表記している。

【委員長】

- ・21世紀の森と広場のパークマネジメントプランは、本公園に限定する意味で用いているのか、リージョナルマネジメントプラン的な広い範囲を対象として用いているのか。

【委員】

- ・千駄堀地域は、千駄堀、金ヶ作、常盤平という地名にて構成されていることを加味した表現とすべきである。千駄堀地域という名称でもいいが、多様な特性を有する地域であることを示した方がよい。広範囲の中でこの公園の役割とはなにかという観点で考えるべきである。

【委員】

- ・21世紀の森と広場のパークマネジメントプランを策定するに当たり、地域という言葉を用いると広範囲のイメージが強くなるため、本公園が地域の中での核的な存在として捉えるのか、公園だけを対象とするのかをハッキリする必要がある。

【委員】

- ・私も同感であり、21世紀の森と広場のパークマネジメントプランを策定するに当たり、本公園だけを対象とするのか広範囲な地域を対象とするのか明確にする必要がある。私の認識では、本公園だけを対象とすべきであると考え。そうでないと、都市計画のレベルまで広がってしまうのではないかと。

【委員】

- ・エリア全体を分析して、その中で本公園に何が必要なのか、本公園はどのように位置づけられるのかという判断を行うことは、この委員会で答申する内容のレベルを超えることとなる。エリア全体について触れつつも、本公園を対象とする事も考えられる。エリア全体とすると、全体の課題と本公園の位置づけを検討することは、内容が大きくなりすぎないか。

【委員長】

- ・このことは、21世紀の森と広場パークマネジメントプランの取り組みの方向性と連携するので、さらに検討する必要がある。事務局はどう考えるか。

【事務局】

- ・本日の委員会での検討を踏まえて事務局内で検討する。現時点では、21世紀の森と広場での取り組みを周辺に波及させ、地域の魅力を高めることを目指すものではないかと考えている。

【委員】

- ・本公園が地域へ貢献することが課題であると考えている。21世紀の森と広場の将来像とパークマネジメントプランにおける取組の方向性については問題なく、さらに一歩進めて、本公園の空間に対してどのような機能を持たせるのかなど、ゾーニングを見直して、どのゾーンにどのような機能や魅力を集積するか、重点化するかを検討する必要があるのではないかと。これをいつ頃行うのか。

【事務局】

- ・来年6月の答申をお願いしており、その前に具体的な取り組みを踏まえて方向性を検討することとなる。多様な方策が考えられるため、すべてが項目に収まらないこともありうるかと考えている。

【委員長】

- ・今後、委員会ではフレキシブルに考えて良いとのことであろう。

【委員】

- ・計画期間はどうか考えているのか。見直しの時期は定められているのか。施策を実施するアクションの場は本公園であり、本公園が活動の拠点としてまちづくりに波及すると考え、本公園から地域へと貢献することが伝わる様にしてほしい。

【事務局】

- ・アクションプランとしての計画を想定しており、10年間を想定している。

【委員長】

- ・資料1の図の表現として、千駄堀の豊かなみどりが基盤となる様なイメージを与えるのではないかと。ポテンシャルとしては、みどりだけではなく、地域力となるものであり、豊かなみどりだけに注目されるのではないかと。

【事務局】

- ・この図はワーキンググループで意見があったSDGsのウェディングケーキモデルを参考としたものであり、豊かなみどりをベースにして、21世紀の森と広場を進化させ、地域の課題を解決していく、という流れを表現している。

2. マーケットサウンディング調査の経過について

【事務局】

- ・昨年度より委員会において審議いただいたマーケットサウンディング調査について、経過を報告する。今回のマーケットサウンディング調査では、新たな管理運営体制の構築のための事業手法や、行政と民間の役割分担、事業者を募集する際の条件等について、民間事業者の皆さんから意見や提案をいただくことで、今後事業者を募集する段階において、より効果的に事業化できるようにしたいという目的のもと実施した。
- ・5月と6月に開催したワーキンググループ後の時間で、実施要領について意見をいただき、8月より実施している。実施要領を掲載した。
- ・実施期間は資料に記載のとおりで、8月2日に公表、8月11日に現地説明会を実施し、8月13日から9月14日にかけて募集を行った。8月11日の現地説明会には5社の参加があった。また、8月25日まで質問を受け付け、8月31日に回答している。なお、質問と回答をまとめたものを掲載しており、これはホームページで公表している。
- ・現地説明会に参加いただいた5社のうち4社から応募があり、個別対話は10月1日に1件実施し、8日に残りを実施する予定である。個別対話の結果を踏まえた最終的な結果は、10月下旬に公表する予定である。なお、応募のあった事業者の名称や提案の内容等については、非公表とする条件で募集を行っており、この場での詳細な説明は行わない。

3. 新たなマネジメントシステムの検討について（答申の方向性）

【事務局】

- ・現在の諮問事項と答申をいただく時期について、改めて説明する。諮問事項は2点あり、一つ目が「21世紀の森と広場パークマネジメントプランの策定に関するこ

と」で、これは来年6月を目途としている。二つ目が「新たなマネジメントシステムの構築・推進に向けた民間事業者等との連携体制の検討に関すること」で、これは今年の12月を目途としている。

- ・令和2年11月に「パークマネジメントプランの基本的方向性」を提言いただいた。市民や民間事業者など多様な主体が参画する新たなマネジメントシステムの構築・推進について、令和3年12月を目途に答申を願うものである。
- ・今後の検討事項として、先ほど説明したマーケットサウンディング調査結果を10月下旬に取りまとめるため、次回のワーキンググループにおいて報告する見込みである。
- ・マーケットサウンディング調査の結果を踏まえ、民間事業者等との連携体制の構築に向けた事業手法や条件等を事務局内部で検討し、次回のワーキンググループにおいて委員から意見をいただきたいと考えている。
- ・令和3年12月の答申では、令和2年11月にまとめていただいた「パークマネジメントプランの基本的方向性」と、マーケットサウンディング調査の結果を踏まえ、資料記載の項目をまとめた内容としたいと考えている。
- ・本日はマーケットサウンディング調査結果がまとまっていないため、現時点で想定している内容でのまとめ方の案であり、答申において書き込む内容のレベル感を共有したく示した。次回のワーキンググループにおいて、改めて答申においてまとめる内容の案を示す予定である。

【委員長】

- ・次回のワーキンググループの開催時期は、何時を予定しているのか。また、ワーキンググループの構成は、従来通りとするのか。

【事務局】

- ・ワーキンググループの開催時期は10月下旬から11月中旬に開催することを予定している。また、ワーキンググループの構成については、従来通りである。

【委員長】

- ・次回12月の委員会で「新たなマネジメントシステムの構築・推進に向けた民間事業者等との連携体制の検討に関すること」について、答申することとなっているが、その内容が記載された資料が無いと、委員の方々が意見を述べる事が出来ないのではないか。

【委員】

- ・答申するためには、それを検討するたたき台案を提示してもらわないと、12月に答申することは難しいだろう。パークマネジメントプランの運営管理体制について、具体的に図示するなど情報提供しないと検討することが出来ない。運営管理者は誰が行うかなど、明確にする必要があるのではないか。

【委員長】

- ・現時点で検討する資料が無く、12月までの2か月で答申するためには、事前に資料を提示してもらう必要がある。事務局にてたたき台案がまとまっていると考えていいのか。

【事務局】

- ・今まで委員会で検討いただいた内容を整理することは可能である。しかし、まだ内容については議論が尽くされておらず、決定していないこともあり、更なる検討が必要となる場合は、新たに検討した資料を作成する必要がある。

【委員】

- ・今までの委員会にて検討した内容については一致していると考えている。それを図示するとともに、管理運営の責任者は誰なのか、日々の業務体制はどうするのか等、責任を明確にするべきであろう。

【委員長】

- ・12月に答申を求めている内容は、新たなマネジメントシステムの構築ではなく、民間事業者との連携体制の構築に関することを明確にすることにある、と考えているのか。

【事務局】

- ・その様に考えている。

【委員長】

- ・今後の委員会開催スケジュールと答申時期・答申内容について、事務局に再度確認する。

【事務局】

- ・本日諮った新たなマネジメントシステムの検討は、次回12月に開催する第15回委員会だけで答申に関する審議が収束することは難しいことを踏まえ、ワーキンググループにおいて議論していただき、12月の委員会での答申に向けて意見の集約を願いたい。なお、答申の時期は目安であるため、ワーキンググループを経ても意見の収束が見られない場合は、何か月かずれてしまってもやむを得ないと考えている。昨年11月にまとめたパークマネジメントプランの基本的方向性の中に、従来の公園管理方式と新しい管理方式が提示され、その中に新たな融合組織のモデルを示しており、その方向性の上で検討いただきたい。

【委員長】

- ・今後の委員会開催スケジュール等の変更の件、了解いただきたい。なお、ワーキンググループは、対面型に限らないこととする。

【委員】

- ・今後、マーケットサウンディング調査結果を踏まえて検討することとなるのだが、その前に、整理されている内容として、今までの内容を形にして事前に提出してもらわないと、ワーキンググループの会議が無駄となる。今後の委員会開催スケジュールを定め、その際の会議資料を事前に提供してもらいたい。

【委員】

- ・資料3.新たなマネジメントシステムの検討において、答申のまとめ方（案）の記述で、整理済みと記載されているが、この内容が分かる資料が手元になく、早々に提示を要請する。現時点では、12月にどのような内容の答申をするのかその内容が分からない。具体的に指定管理者制度やPark-PFI制度などの中で何が望ましいのかを検討するものと想像しているが、それは、全体のパークマネジメントプ

ランの方向性や将来像が定まっていないと、具体的な内容が決まらないのではない
か。先にパークマネジメントシステムについて、答申することが出来るのだろうか。

【委員長】

- ・10月末までに、今までの整理した内容を提出してもらいたい。なお、マーケットサウンディング調査結果が出てきた折に、その内容の検討も併せ行ってはどうかという内容と、来年6月に答申を予定している21世紀の森と広場のパークマネジメントプランについても、2回開催するワーキンググループで含めて検討してみてもどうかという提案であった。10月下旬の結果を待つのではなく、その前にマネジメントシステムについて議論をした方がいいのではないかと提案である。何を優先するかも明確にする必要があり、全体のパークマネジメントプランを検討することは、広範となるため、効率的に対応して欲しい。

【事務局】

- ・その通り対応する。

【委員】

- ・マーケットサウンディング調査の実施要領に、今後のスケジュールが記載されている。これまでの行政職員としての経験をふまえ、このスケジュール通り事務手続きを実施するのは難しいのではないかと。

【事務局】

- ・この実施要領に記載しているスケジュールは、あくまでも想定であり、庁内でオーソライズされた決定事項ではないため、答申時期の変更は可能であると考えている。

4. その他

【事務局】

- ・21世紀の森と広場遊具等施設整備事業に係るガバメントクラウドファンディングによる寄付募集開始について報告する。
- ・当委員会において審議いただき、昨年度より整備に着手した21世紀の森と広場の遊具について、昨年度に引き続きガバメントクラウドファンディングによる寄付募集を開始した。
- ・目的等概要については、寄付目標金額は昨年度と同じく500万円として、皆さまからいただいた寄付金は遊具等施設整備事業の一部に充当させていただく。9月15日から募集を開始し、12月13日までの90日間となっている。
- ・昨年度は広場部分の「縄文サークル」「ジオマウンテン」「昆虫のスミカ」を整備したが、今年度は広場北側の斜面の部分と斜面の上のバーベキュー場との間を繋ぐ部分を整備し、50mを超えるローラースライダーの「スパイラルフォレスト」、林間を登りながら遊ぶことができる「冒険トレイル」、バーベキュー場から「あそびのすみか」への導入空間となる「縄文トンネル」を整備する。

【委員】

- ・今後整備する遊具について、設計図は無いのか。また、パーマカルチャーについては、今後どうなるのか。

【事務局】

- ・現在入札手続きの段階にあり、設計図はあるが公表できない。パーマカルチャーについては、まずは遊具という器ができたので、自然との触れ合い、農との触れ合いなど、ソフト面でどの様な方向で展開していくか今後検討していく。

【委員】

- ・供用開始されている部分について、どのような利用状況なのか。

【事務局】

- ・夏季では子ども達が閉園時間になってもなかなか帰らないぐらいの状況であった。各遊具ができたため、子どもと家族との来訪が多くなり、この土日では7, 000人から9, 000人が来訪している。

【委員】

- ・この遊具設置により、どの程度の効果があったのか。また、事故は発生していないのか。

【事務局】

- ・具体的に各遊具の利用者数をカウントしていないが、イベント開催時と同程度の駐車場の稼働状況であり、通常時でも来園者が多くなっている。また、毎朝職員にて点検を行っており、事故等は発生していない。

【委員】

- ・実際に利用状況を見たが、遊具は全体的にバランスよく利用されており、一つの遊具に集中しておらず、設計で意図した内容が上手く機能していると感じた。

【委員長】

- ・本日の議事は終了する。

以上